想いをつなぎ、未来を支えるTCへ

がもう歯科

金子 千晶

〈TCマスターカレッジを受講するきっかけ〉

私は歯科未経験でがもう歯科に入職した。もちろん歯科に関する資格もなく、真新しい環境でついていくので必死な毎日だった。幸いにも前職で培ったコミュニケーション力などが役に立ち、少しずつ患者さんやスタッフとの距離を縮めることができた。入職２年目には、歯科助手として治療のアシスタントを務めるようになった。チェアサイドで院長の説明を聞くことなどを通して、少しずつ歯科の知識を深めていった。

院長よりTCという仕事について話があったのは助手の仕事に携わって２年が経った頃だ。TCという仕事をはじめて聞いた時、新しいことが好きなこともありワクワクした気持ちもあったが、「知識も経験も十分ではない自分に務まるのだろうか」という不安もあった。また、ちょうどその頃に息子を妊娠していたこともあり、新しいことへの挑戦に対する不安と期待が入り交じり、複雑な気持ちを抱えていた。そして、育児休暇を経て復職したタイミングで患者さんと少しずつ接していく時間も増え、患者さんから「おかえりなさい」などの言葉をかけてもらえた時に、「もっと患者さんと関わっていきたい」、「少しでも患者さんの役に立ちたい」と思い、私の居場所が目に見えた気がしてとても嬉しく今でも忘れられない感情になった。その気持ちを糧にTCマスターカレッジの受講を決意した。

そして、令和８年がスタートするとともに私のTCとしての学びが始まった。まずは基礎から学びたいと院長にお願いし、TCベーシックコースの受講を経て今に至る。

〈TCレギュラーコースを受講して〉

今回レギュラーコースを受講して特に印象に残っていることは、「伝え方次第で患者さんの未来を変えられる」ということだ。受講前は、ただ治療内容を伝えることがTCの役割だと思い込んでいた。だがそうではなく、大切なことは、患者さんがご自身の口腔内の状態を十分に理解できているかどうかである。正論ばかりで一方的に伝えるのではなく、患者さんの気持ちに寄り添い、相談を重ねながら希望を確認し、治療の方向性を一緒に考えることが何よりも大切ということに気づいた。

また、TCの勉強を本格的に始める前から初診カウンセリングをおこなっていたが、問診票に沿って各項目について問診し深掘りもできず、メモをとるのに必死で患者さんの顔もあまり見られていなかった。問診の記録も重要だ

が初診カウンセリングでは、記録を取ること以上に、患者さんの雰囲気や表情を観察し、限られた時間で目の前の患者さんについて理解することが重要である。特に過去の歯科治療歴（デンタルヒストリー）は患者さんの歯科に対する考え方や意識がわかるところになるのでしっかり聴き取る必要がある。授業で習った聴き方の５つのポイントを活かしながら、私自身のカウンセリングの仕方や姿勢を見直し改善していきたい。

そして、初診時には予防の重要性に加えて、治療を繰り返し行うことで歯を失うことにつながる”ロススパイラル”について伝えることで患者さんの歯科に対する意識を確認し、行動の変化を促すことができることを知った。初診カウンセリングでは８割聴いて２割話す。その２割でいかに伝えられるかTCの腕が試されるところだ。

〈日本の歯科医療におけるTCの役割〉

1989年、日本歯科医師会によって8020運動が開始された。当初、8020運動達成者は１割に満たなかったが、近年では患者さんの意識も変化し直近のデータ（厚生労働省・令和６年歯科疾患実態調査）では61.5%。初めて６割を超えた。最近では少しずつ認知度も高くなり、患者さんの意識も少しずつ予防に向いていっている。

当院、院長が所属している大村東彼歯科医師会では毎年「8020コンテスト」の実施、80歳で20本以上ご自身の歯が残っている方を対象に表彰・審査など予防の取り組みを讃える場もあり、各方面から予防の重要性が発信されている。

だが、まだまだ対症療法を希望する患者さんが絶えない。その理由は、経済的理由、治療の必要性を感じない、痛みなどの自覚症状がないことや、歯科治療に対する恐怖心など、患者さんによってさまざまである。この理由を聞くたびに私たちの伝えたいことが伝わりきれていないと感じる。考えを払拭することは難しいが、患者さん一人ひとりの不安や恐怖心にしっかりと耳を傾け寄り添うことはできる。

初診時に歯科医師や歯科衛生士の想いを伝え、架け橋になり歯科医療者と患者さんをつなぎ続けることができれば、患者さんの理解や安心につながり、より良い歯科医療を提供できると考える。一人でも多くの患者さんに、予防の重要性やロススパイラルについて知っていただけるようにこれからも患者教育を続けていきたい。そして、8020コンテストにおいて当院から一人でも多くの受賞者を輩出できるよう微力ながら支援していきたい。

〈スクールでの学びを医院でどう活かせるか〉

私自身、このTCマスターカレッジを受講したくさんのやりたいこと（WANTS）ができた。

既存の患者さんは不安や希望、胸の内を話せるスタッフが存在するのか考えた。誰に相談したらいいのか、誰に質問したらいいのか分からず歯科医師やその日処置を担当した歯科衛生士に直接質問をする方もいれば、受付で聞く方もいた。そこで今後TCとして医院で活躍するためにはまず、患者さんがわからないことや相談があれば「TCに話をすればいいんだ」という環境づくりから取り組んでいきたい。また、普段の患者さんの雰囲気もしっかり観察し、少しの変化にも目を配れるように待合室での声かけなどを意識しおこなっていきたい。患者さんの気持ちをしっかりと受け取り、歯科医師や歯科衛生士につなげていき、少しのモヤモヤも残さず治療を終えてほしい。そのためにも、患者さんの不安や希望はスタッフ間で共有することを徹底していく。

また、既存の患者さんは当院のことを信頼し通院してくださっている。その信頼に応えるためにも、一人ひとりが今抱えている口腔内の問題にしっかりと寄り添い向き合いながら将来の口腔内について一緒に考えていきたい。当院の医院理念にもあるように「患者さんのライフステージに合わせた生涯治療・包括的治療」を目指してチーム医療で取り組んでいく。

そして、TCの大切な仕事の一つである、”歯科医師、歯科衛生士の治療計画や想いのバトンを受け取り患者さんの心に送り届ける役割”を果たしつつ、患者さんの気持ちも歯科医療者側に送り届けていく役割を担っていく。

〈おわりに〉

私は今TCとしてやっとスタート地点に立つことができた。ベーシックコースを含めこの８ヶ月間、毎月受講するたびに歯科に関する知識が深まり、カウンセリングの引き出しも少しずつ増やすことができた。これからは私にできたWANTSで患者さんに希望を与え、たくさんのWANTSを作っていただき実現できるTCになりたい。

これまでの学びや自分自身に起きた変化は、鈴木代表をはじめ、宮下先生、占部先生、サポートスタッフの皆様のお力添えがあったからこそだ。実際の現場でのお話やアドバイスは、これからも私の心に残り続ける大切な学びとなった。このような素晴らしいスクールを開講してくださり、本当にありがとうございました。

そして、第７期生のみんな。同じような境遇の方がいることも心強かったが、”一緒に頑張りましょうね”と励まし合える関係が何よりも励みになった。このような縁を大切にし、これからも高め合える関係性でありたい。

最後に、今回の受講は医院として初めての試みだった。その大役を私に任せ、信じて送り出してくださった院長。心から感謝しています。また、家族をはじめ、スタッフのみんなの協力もあり、今日の私がある。この感謝の気持ちを忘れずにこれからも学びを重ね、患者さんの想いをつなぎ、未来を支えられるTCへと成長し続けていきたい。

以上（3011字）